

平成24年度

学 校 評 価

宮崎県立都城農業高等学校

平成25年3月

平成24年度 宮崎県立都城農業高等学校 学校（内部）評価 結果

段階評価 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

本校の使命 ○ 日本の食糧基地である北諸県地域の農畜産業、農業関連産業、ヒューマンサービス分野の担い手の育成・ ○ ふるさとを愛し、思いやりのある逞しい職業人の育成。								
本校の目標（学校経営ビジョン 本校が目指す学校像） 1. 「学びの心」と「生き抜く力」を高める学習及び実習指導を通して、生徒の進路実現を図る。 2. 部活動、農業クラブ活動、生徒会活動等の諸活動を通して、都農魂の具現化を図る。 3. 家庭、地域、農友会等との連携を通して、信頼される学校づくりを図る。 4. 評価制度の活用と職員研修の充実等を通して、学校力と教師力の向上を図る。								
ビジョン実現のための重点目標 1. 進路決定100% 2. 部活動、農業クラブ活動等の全国大会出場 3. 地域への積極的貢献								
分掌	基本方針	年度達成目標	達成のための計画	評価基準	内 部 評 価		学校関係者評価	
					評価	評価の観点（成果、課題等）	評価	評価出来る点、課題等
教務部	①学校教育目標を達成するため、教育課程を改善し実践する ②個人情報の適切な取り扱いと情報管理の徹底を図る	各教科における必修教科目・選択科目を決定し、原案を作成する。	・カリキュラム委員会の充実 ・新学習指導要領理解のための職員研修を実施する。	4 カリキュラム委員会、職員研修が充実出来た。 3 カリキュラム委員会、職員研修がある程度出来た。 2 カリキュラム委員会、職員研修があまり充実出来なかった。 1 カリキュラム委員会、職員研修が計画通りできなかった。	2	カリキュラム委員会を計画的に実施し新学習指導要領に対応した教育課程を完成することができた。一方新学習指導要領実施に向けて職員研修で共通理解を図る計画であったが実施できなかった。	3	◎学力の向上が進学、就職100%につながったのだと思う。 ◆欠席・遅刻を減らす取組は評価できるが、実際は増加している。 ◎全員卒業、進級へ向けての先生方の努力が評価できます。 ◆携帯・スマホの情報教育にしっかり取り組んで欲しい。
		各クラスの評定平均値を前学期より0.1アップさせる。	・各学年会と協力して学年統一課題を出すことで、自宅学習の定着を図る。 ・定期的にアンケートを実施して生徒の実態把握に努める	4 4割のクラスが評定平均値0.1アップした。 3 3割のクラスが評定平均値0.1アップした。 2 2割のクラスが評定平均値0.1アップした。 1 1割のクラスが評定平均値0.1アップした。	4	5割以上の8クラスの評定平均値が0.1以上アップした。2、3年生の頑張りが目立った。生徒アンケートから、自宅学習の定着には一定量の課題が必要である。次年度も学年会・各教科の協力の下、学年統一課題をお願いしたい。		
		通知表・調査書・生徒指導要録等に関する成績等を共有する為のシステムの導入を目指す。	・システム導入に向けた調整会議の実施 ・教職員研修の実施	4 システムが導入され充実した研修を行った。 3 システムが導入されたが研修は出来なかった。 2 システム導入に向けた調整会議は行った。 1 調整会議も出来なかった。	2	システム導入に向けて、業者からの見積もりまで得られたが、数年後果による導入計画があるとのことで、独自の導入は見送られた。これまで使用している本校のソフトを今後も使用し、迷惑のかからないよう改善に努めたい。		
生徒指導部	生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら主体的に判断・行動し、積極的に自己を生かしていくことができる生徒の育成を目指す。	①生徒会活動の活性化・充実	①生徒の主体性や社会性を養うためにピア・サポート活動の実施	4 ピア・サポート活動を充実させることができた。 3 ピア・サポート活動を実施できた。 2 ピア・サポート活動の計画だけで実施出来なかった 1 計画も、実施もできなかった。	3	ある程度の計画を立て、活動を実施できたが、必ずしも充実した内容でなかったので来年度は、もっと主体的に生徒が活動できるようにしっかり事前に計画をしていきたい。	2.5	◎朝の挨拶運動ではPTAも参加し挨拶と交通安全を呼びかける運動が出来たことは評価できる。 ◆イエローカード指導の強化は行われているものの問題行動が増加している。 ◆車道での自転車並進を良く見かける。
		②問題行動・自転車事故ゼロを目指す。	②効果的なイエローカード指導により問題行動の未然防止に努める。交通教室やバイク生徒集会を開催する。	4 イエロー指導・集会で前年比、40%以上問題行動・事故が減った。 3 イエロー指導・集会で前年比、10%以上問題行動・事故が減った。 2 イエローカード指導・集会の効果は、昨年とほぼ同じだった。 1 イエローカード指導・集会による問題行動減は図れなかった。	2	交通安全集会や呼びかけを行ったが交通事故報告数は昨年とほぼ同数であった。また、イエローカード指導によって問題行動の数の激減にいたらなかった。しかしながら、大きな問題行動になるのを抑制している部分はあると思われるので今後も有効に活用しながら生徒の心に訴える指導もあわせてやっていきたい。		

◎学力の向上が進学、就職100%につながったのだと思う。

◆欠席・遅刻を減らす取組は評価できるが、実際は増加している。

◎全員卒業、進級へ向けての先生方の努力が評価できます。

◆携帯・スマホの情報教育にしっかり取り組んで欲しい。

◎朝の挨拶運動ではPTAも参加し挨拶と交通安全を呼びかける運動が出来たことは評価できる。

◆イエローカード指導の強化は行われているものの問題行動が増加している。

◆車道での自転車並進を良く見かける。

分掌	基本方針	年度達成目標	標達成のための計画	評価基準	内 部 評 価		学校関係者評価	
					評価	評価の観点（成果、課題等）	評価	評価出来る点、課題等
進路指導部	本校の生徒が確かで堅実な人生設計を描き、自己の適性に応じて能力をフルに発揮できる職業人として生きる力をつけさせ、経済的な自立を図れるような進路指導を行う。 また生徒の多様化に応じた進路指導を推進する。れるような進路指導を行う。また生徒の多様化に応じた進路指導を推進する。	①計画的、組織的な進路指導の充実に努める。	①計画・立案を早期に行い、かつ役割分担を明確にすることで、定期的な実施・運営を図る。	4 年間を通して、早期に対応と運営ができた。 3 概ね早期に対応と運営ができた。 2 やや早期に対応と運営ができなかった。 1 早期に対応や運営ができなかった。	4	進学合格率は100%、就職は結果待ちの1名を除き全て達成した。就職の内1回の採用試験で内定したのが76%であった。この割合を決して楽観視していないが、現在の厳しい就職状況からは、生徒の頑張りや節目毎の大きな進路行事が結果的に結びついたと思う。一方で今後上級学校の合格率をあげるには、本人の意思表示と本格的な受験科目の指導をもっと早める必要がある。	4	◎キャリア教育の充実が進路確定100%につながったのではない。 ◎卒業生全員の進路決定は高く評価出来ます。 ◆早期離職者や中退者のフォローアップをしっかりと行う必要があるのではない。
		②計画的な職場開拓を行うと共に、就職者の定着指導の徹底に努める。	②企業・学校訪問の点検・見直しを徹底し企業・学校との良好な関係維持に努め、また卒業生の情報収集を徹底する	4 正確な情報収集と関係維持ができた。 3 概ね情報収集と関係維持ができた。 2 やや情報収集と関係維持ができなかった。 1 情報収集と関係維持ができなかった。	3	本校と繋がりが深い企業、大学、短大等は、概ねこれまで通りの関係を維持できた。就職試験では学力に加え、評定値や欠席日数のハードルが高くなってきており、日頃の学習習慣と基本的生活習慣の安定、維持が重要になってきている。企業・学校訪問や卒業生来校により得たそれぞれの情報を面接指導に生かすことができた。次年度は進路対策専門員の雇用方法が変わるので、これまでに築いた人的継続効果が薄れないよう対策を考えたい。		
		①差別選考のない就労保障に努める。	③ハローワーク等の公的機関との連携を徹底し、差別選考に対する校内で意識改革を徹底する。	4 年間を通しての連携・対応ができた。 3 概ね連携・対応ができた。 2 やや連携・対応ができなかった。 1 連携・対応ができなかった。	4	ハローワーク主催のジュニアワークフェアへの参加は、内定率向上につながった。都城ハローワークからも担当者の来校があり、情報交換と連携がスムーズにいった。今年度は本校生徒の差別選考の予見と事例がなく、改めて意見交換をすることはなかった。		

分 享	基本方針	年度達成目標	標達成のための計画	評 価 基 準	内 部 評 価		学校関係者評価	
					評価	評価の観点（成果、課題等）	評価	評価出来る点、課題等
保 健 体 育 部	<保健部> 健康の保持増進、 体力の向上を図り、 自発的運動の実践と自己管理の できる能力を育成する。	保健室利用者の減少を目指し、 心的・病的生徒の把握とラポート に務める。	①計画の早期提示と、啓蒙活動の徹底を図る。	4 計画の早期提示ができた。(1ヶ月前) 3 計画の早期提示ができた。(3週間前) 2 計画の早期提示ができた。(2週間前) 1 計画の早期提示ができた。(1週間前)	3	計画の早期提示と実行ができた。啓蒙活動については保健便りやクラス掲示資料、保健委員会をととしての活動ができた。また、先生方の協力を得て計画調整ができた。	4	◎インフルエンザ等の伝染病への学校の取組(マスク、手指消毒)は評価出来ます。
			②結果の早期提示と、事後指導の徹底を図る。	4 早期提示と指導徹底ができた。(100%) 3 早期提示と指導徹底ができた。(70%) 2 早期提示と指導徹底ができた。(40%) 1 早期提示と指導徹底ができた。(10%)	3	結果の早期連絡・事後措置の管理指導ができた。特に本年度の3年麻しん予防接種率99%、心臓検診・内科検診事後検診は100%を達成した。しかし、感染予防の徹底が図れなかった。		
			③委員会活動の活発化と、議題の事前検討を図る。	4 放課後活動・啓蒙活動ができた。(100%) 3 放課後活動・啓蒙活動ができた。(70%) 2 放課後活動・啓蒙活動ができた。(40%) 1 放課後活動・啓蒙活動ができた。(10%)	3	保健委員長が年間計画・実践と委員会をまとめ、環境調査や生活アンケート等の結果についての意見を学校保健委員会で述べるなど活動を盛り上げた。		
	<体育部> 楽しい体育の授業実践から、動く・集う・わかる・伸びる授業を目指し、心身の安定と向上を図る。	学習方法、自己の体力・技能を知り、選択体育の進め方を理解し積極的に運動に取り組む生徒を育てる。(1学年)	<教師主導型> 計画・指導について大半を教師に委ねる。	4 モラルや規則に則り学習した。(100%) 3 モラルや規則に則り学習した。(70%) 2 モラルや規則に則り学習した。(50%) 1 モラルや規則に則り学習した。(30%)	3	授業の忘れ物を減らすことが今後の課題。自分の体力に関心を持たせるデータの提示や体力向上に対し喜びを感じる授業を考えたい	3	◎体力向上は心身のバランス向上に非常に役立っていると思う。生涯体育の観点から是非この計画を継続してやって欲しい。
			<教師・生徒共存型> 計画の一部・指導や学びの一部に、生徒・教師が関わる。	4 モラルや規則に則り学習した。(100%) 3 モラルや規則に則り学習した。(70%) 2 モラルや規則に則り学習した。(50%) 1 モラルや規則に則り学習した。(30%)	3	1年次よりも忘れ物や見学が減り授業に対する生徒の意欲的な姿勢が見られ成長を感じた。授業開始時のラジオ体操も定着し授業にスムーズに入れるようになった。		
			<生徒主導型> 計画・指導について、大半を生徒に委ねる。	4 モラルや規則に則り学習した。(100%) 3 モラルや規則に則り学習した。(70%) 2 モラルや規則に則り学習した。(50%) 1 モラルや規則に則り学習した。(30%)	3	練習計画の作成やゲームの運営等、自主的に運動を行う具体的な方法を学ばせ、生涯のスポーツライフ実践に導くと共に授業中でのリーダー育成が必要である。		
環 境 整 備 部	校内の緑化・美化活動を推進することにより美化の意識を高め、環境の整備に対する精神を養う。	学校美化に努めるとともに、学校緑化を推進する。	清掃時間には必ず職員が清掃指導を行うよう呼びかける。	4 清掃指導を、常時心がけて呼びかけた。 3 清掃指導をなるべく心がけて呼びかけた。 2 清掃指導の呼びかけが不十分だった。 1 清掃指導の呼びかけはほとんどしなかった。	3	職員の美化意識の向上が必要。呼びかけの工夫が必要と感じた。	4	◎校内はいつもきれいに清掃されており環境美化に力を入れておられることがしっかりと見えます。
			美化委員の活動を活発化する。	4 美化委員が積極的に活動した。 3 積極的ではなかったがまあまあ活動した。 2 美化委員の活動は消極的だった。 1 美化委員の活動はほとんどみられなかった。	4	毎週、火曜・木曜に放課後の清掃活動をテスト期間中以外は活動を行えたので良かったと思う。		
			環境整備部員主導のもと、校内緑化活動を活発に行う。	4 環境整備部員主導で、常時積極的に活動した。 3 積極的ではなかったがまあまあ活動した。 2 消極的な活動にとどまった。 1 ほとんど活動しなかった。	3	共通理解の基に活動する工夫が必要。		
	部活動の中で自発的な清掃活動を徹底させる。	各部の顧問の協力を仰ぎ、校内の美化活動を行う。	4 40%以上の部が美化活動に取り組んだ。 3 20%以上の部が美化活動に取り組んだ。 2 5%以上の部が美化活動に取り組んだ。 1 その活動は消極的で4%以下だった。	3	特に強化指定部の取り組みは良かった。課題として全ての部活動が活動場所付近の清掃活動に取り組めるよう働きかけたい。			◎学校周辺、校門前の花壇は一年中花が植えられ地域の方々が非常に喜んでおられます。

分掌	基本方針	年度達成目標	標達成のための計画	評価基準	内 部 評 価		学校関係者評価
					評価	評価の観点（成果、課題等）	
図書 視聴 覚 部	1. 読書の定着と内容の充実を図り、生徒の健全な教養の育成に努める。 2. 視聴覚機器の充実と活用を促進し、生徒の社会的視野を広め、情操教育に寄与する。	朝の読書を通じて、読書への興味と習慣化を図る。	節目に図書部が巡回し必要な指導を加えていく。学校文庫を設置して読書の浸透を図る。	4 90%以上の生徒が読書に取り組んだ。 3 80%以上の生徒が読書に取り組んだ。 2 70%以上の生徒が読書に取り組んだ。 1 60%以上の生徒が読書に取り組んだ。	3	読書の時間の担当の先生方の協力により、読書の習慣づけができた。	◎読書が教養の育成に役立つと共に情緒安定にもつながっていると思うので今後も是非継続して下さい。 ◎活字を読むことで落ち着きが出てきたと思う。
		図書の活用を促進する。	図書オリエンテーションを早期に実施し、啓蒙に努める。	4 1年全クラス実施でき図書の利用が高まった。 3 1年全クラス実施したが、図書利用に変化なし。 2 1年全クラスで実施できたが図書利用は減少。 1 全クラス実施できず、図書利用も減少した。	4	オリエンテーションにより、本への興味・関心が見られ貸し出しが多くなった。今後は授業での図書館利用を呼びかけたい。	
		図書委員会の活性化	図書委員会が生徒の役員を中心に司会進行できるよう指導し、委員の力量、自覚を高める。	4 生徒役員の司会進行により活発な討議がなされた。 3 生徒役員の司会進行によりまあまあな討議がなされた。 2 生徒役員の司会進行はできなかったが討議にはならなかった。 1 生徒役員中心の司会進行はできなかった。	4	定期的な委員会活動により内容も充実してきた。各クラスのライブラリたよりの発行により生徒の活動の意識付けができた。	
			図書運営委員会を開催する。図書広報誌を発刊する。積極的に図書希望を出させる読書感想文・画を出店させる	4 目標の4つを達成できた。 3 目標の3つを達成できた。 2 目標の2つを達成できた。 1 目標のいずれも達成できなかった。	3	目標は概ね達成はしているが、読書感想文・画については、国語科、芸術、美術部等の教科の連携を図り取り組んでいきたい。	
渉 外 厚 生 部	PTA活動及び同窓会（農友会）活動を活性化する。	PTA三役会及びPTA理事会を計画的に実施する。	三役5人、理事17人合計22人全員の理事会出席を目指す。	4 常時90%以上が参加した。 3 常時80%以上が参加した。 2 常時70%以上が参加した。 1 70%以下であった。	3	お忙しい中、日程を調整されて出席していただいている。さらに、出席率を上げるための工夫改善が求められている。	◆PTAは学校の現状にあった内容に変更し、保護者の協力態勢を強化し100周年に向けて頑張ってください。 ◎PTA行事の在り方を考えられたのは評価できる。
		職員レクリエーションを定期考査期間中に実施する。その他の職員の意思疎通と融和を図る諸行事を企画・立案実施する。	職員レクリエーションへの参加率向上を図る。	4 平均して40人以上が参加した。 3 平均して30人以上が参加した。 2 平均して20人以上が参加した。 1 20人以下であった。	2	皆さんが参加者しやすい行事にするために、意見を集約していく必要がある。	
		農友会役員会を定期的に実施する。	・定期総会・慰霊祭の参加率向上を図る。 ・球技大会への参加率向上を図る。	4 前年より4割以上参加者が増えた。 3 前年より2割以上参加者が増えた。 2 例年通りの参加率だった。 1 例年を下回る参加率だった。	2	創立100周年行事に向けて、農友会の取り組みを強化する必要がある。	
教 育 相 談 部	自分を大切にし、他者も大切さを認めることができる生徒を育成する。	不登校やいじめを受けている生徒・発達障がいのある生徒に対し、各部及び学年、担任との連携を密にし、問題の解決に努める。	①教育相談来室の生徒との共感と受容の関係を保つ	4 教育相談室としての機能を十分発揮できた。 3 教育相談室としての機能をまあまあ発揮できた。 2 教育相談室としての機能はあまり発揮できなかった。 1 全く機能しなかった。	3	屋休みを常時利用する生徒達を中心に教育相談室の利用が多かった。特別支援会議等でコーディネーターの轟木先生の助言を参考に運営することができた。	◎思春期の悩み多き生徒や特別な支援を必要とする生徒への対応等、きめ細か対応ができていると思います。
			②アンケート、アセスの実施	4 アンケート、アセスを実施し、その結果を活用できた。 3 アンケート、アセスは実施できたが、活用できなかった。 2 アンケートは作成したが実施出来なかった。 1 アンケート、アセスは作成も実施もしなかった。	4	本年度は、いじめが社会的にも問題視され、県のアンケートや本校独自のアンケートを先生方の協力で実施できた。アンケートやアセスの結果を職員会議で先生方に報告できた。	
			③校内職員研修の開催	4 職員研修を計画的に実施し成果もあがった。 3 職員研修は実施したが成果は今一歩だった。 2 職員研修を実施するにとどまった。 1 職員研修を計画はしたが実施出来なかった。	3	ボン太くらぶの外山明美様に「困り感のある子ともの親の想い」について講演頂いた。貴重な講演内容であった。しかし、期末試験中に実施したこともあり、出席率が悪く、時期の検討が必要である	

分掌	基本方針	年度達成目標	標達成のための計画	評価基準	内 部 評 価		学校関係者評価	
					評価	評価の観点（成果、課題等）	評価	評価出来る点、課題等
事務部	①関係部・学科と連携を密にし、支援体制の確立を図る。	①各部・学科の予算執行計画をもとに、標準的な事業運営費を算出する	①事業計画から実施・評価まで工程表を作成し、必要に応じて段階的なヒアリングを実施する。財務委員会、運営委員会、学科主任会等の基幹会議において効果的な情報提供を行い、各部等と積極的に連携を図る。	4 標準的な事業運営費の算出ができた 3 計画の（60％）を算出した。 2 計画の（30％）を算出した。 1 事業運営費算出には至らなかった。	3	学科に配分した予算執行の管理にとどまり、適正な事業運営について、積極的に提案することができなかった。財務・運営委員会等で情報を収集し、積極的に事業提案ができるように努めたい。	3	◎教育費の適正な予算執行しっかりできていると思います。 ◎部活動の強化費の見直し等ができて良かった。
	②教育環境の整備充実を図る。	②整備率を高めるとともに、各部・学科の整備要求を基に学校施設整備の中期基本計画としてまとめ継続的な営繕計画に資する	②関係部・学科とヒアリングを効果的に実施する。	4 学校施設整備中期計画を策定した 3 計画の（60％）を策定した。 2 計画の（30％）を算出した。 1 事業運営費算出には至らなかった。	3	懸案だったワースト3の内2件を片付けることができたが、年度末に工事が集中し、工事への対応が十分にできず迷惑をおかけしました。		
	③準公金会計の適	③準公金は「準公金取り扱い規程」に基づいて処理をする。	③関係団体と適宜連絡調整を行い、適正な事務執行に努める。	4 事務処理要領を策定し、職員へ周知した。 3 事務処理要領を策定した。 2 策定に向け役員会で引き続き検討した。 1 要領検討案策定にとどまった。	3	一般会計においては、無駄のない執行をすることができたが、全般的に職員への周知徹底ができず、費用対効果に課題が残った。要領では読み取れない個別の判断が必要なケースが多数あった。		
農務部	農業及び農業に関連する基礎的・基本的な知識と技術が確実に	①特色化に向けて各学科の教育内容を見直す。	①地域の実態とニーズを把握する。 ②各科ならではの教育内容を明確にする。 ③各科で身に付く技術を明確にする。	4 ①～③の全てを見直し把握できた。 3 目標の二つを見直し把握できた。 2 目標の一つだけ見直し把握できた。 1 全ての項目の見直し把握ができなかった。	3	幼・小・大学及び地域関係機関等との連携事業が実施でき、各学科の特色ある教育活動が展開できた。 今後さらに6次産業化へ向けての教育内容を改善していく必要がある。	3	◆毎年管内で、新規就農者が20名前後である。農業生産を維持するには30名以上が必要である。担い手育成教育にしっかり取り組んで欲しい。 ○農家出身生徒の就農を何とか支援したい。普及センターへの情報提供をお願いします。 ◆六次産業化に向けた取組を是非お願いしたい。 ◆もっと地域企業や大学等と連携してもっと専門的な学習を充実させて欲しい。
	身につくような学習に重点を置き、地域社会の期待に応えることのできる教育内容について研修を重ねその推進に努める。	②就農支援事業を通して、担い手としての意識の啓発を行う。	①地域及び関係機関と連携する ②農業担い手希望者の意識の調査を行う。	4 農業担い手としての意識が非常に高まった。 3 農業担い手としての意識がやや高まった。 2 啓発は行ったが意識の高揚には至らなかった 1 計画的な啓発も出来ず意識の高揚もなかった。	3	就農支援事業においては、各関係機関との連携を図り、諸会議や研修会に生徒・職員とも積極的に参加できた。また、年間に取り組んでいる事業が、農業担い手としての意識の高揚につながっていると確信する。		
		③職員に意識を高め、校内各種大会のレベルを向上させる。	①農ク大会の事前指導を確実に行う。 ②農業クラブ大会での実績を残す	4 1ヶ月以上前から指導した。 3 1ヶ月前から指導した。 2 3週間前から指導した。 1 2週間前から指導した。	3	農業クラブの県大会では、優秀賞を獲得することはできたが、最優秀賞は今一歩であり、確実にレベルアップは図られた。今後の課題として、生徒の潜在能力をさらに引き出せるように、職員の意識を高める必要がある。		

分掌	基本方針	年度達成目標	標達成のための計画	評価基準	内 部 評 価		学校関係者評価
					評価	評価の観点（成果、課題等）	
農業科	北諸県地域の農業及び農業関連産業分野で活躍する担い手を育成する。	①進路決定100%を実現する。	①学科全職員で進路指導に当たる。	4 全職員が協力して進路決定100%を実現した。 3 50%以上の職員の指導で100%を実現した。 2 50%以下の職員の指導で100%を実現した。 1 進路決定100%を実現できなかった。	3	多くの職員の協力で、進路実現100%を実現できた。次年度は第一希望で合格出来るよう進路指導に当たりたい。	3 ◎アグリフェスティバルでは栽培した野菜、果物などの品質も良く購買者から大変喜ばれていました。
		②各部門で、地域農業に対応できる農場運営に取り組む。	②生徒が興味・関心を持つ新しい作物や栽培方法の導入に取り組む。	4 新作物や新栽培方法に積極的に取り組んだ。 3 新作物が新栽培方法のどちらかに取り組んだ。 2 計画はしたが、実施できなかった。 1 新作物や新栽培方法には取組まなかった。	3	草花ではキクの切花に初めて取り組んだ。野菜では温室に自動灌水装置・炭酸ガス発生装置・細霧システムが設置されたので今後の活用が期待できる。作物ではイネの直播栽培を実施した。	
		③学校農業クラブ活動で全国大会に出場する。	③生徒が主体となる「課題研究」であるが、常に適切な助言をし内容の充実を図る。	4 年間を通して計画的な指導ができた。 3 大会前は指導ができた。 2 あまり指導ができなかった。 1 全く指導ができなかった。	2	担当者だけの指導が多く、全員での指導は十分ではなかった。	
畜産科	これからの畜産を担う畜産経営者や関連産業技術者の育成を目指す。	①乳牛や肉用牛は各品評会で高いレベルの結果を出す。	①生徒一人ひとりに目標を持たせ、計画を立て行動させる。	4 計画どおり実施できた。 3 概ね実施できた。 2 実施内容に差ができた。 1 計画どおりできなかった。	3	各種品評会や共進会へ参加し、昨年度より良い成績を上げることができた。また、生徒は積極的に活動し学習効果も高まった。	3 ◎学校をあげての口蹄疫等の家畜防疫対策は非常に評価出来ます。 ◆都城は牛、豚が日本一である。この特色をもう少し活かすべきではないか。
		②県やJAなどと連携を積極的に行う。	②各機関との連携を図り、年次計画に基づき授業を展開する。	4 計画どおり実施できた。 3 概ね実施できた。 2 実施内容に差ができた。 1 計画どおりできなかった。	3	農業普及センター等専門的な指導を頂いた。また、家畜審査など地域の方々との協力も得られた。また、意見発表やプロジェクト学習、鑑定競技、家畜審査など活躍した生徒がおり計画的な取組が出来た。	
		③伝染病を出さない。	③計画的な防疫指導を行う。	4 計画どおり実施できた。 3 概ね実施できた。 2 実施内容に差ができた。 1 計画どおりできなかった。	3	毎月、月末の消毒の日は、特に徹底した消毒を行った。今後、来客者の徹底も同時に行っていく、消毒室の活用についても効果的に行っていきたい。	
ライフデザイン科	農産物及び農業の多面的機能を生かし、快適な生活空間の確保や食生活について学び、安らぎと、満足感のある健康社会を築くヒューマンサービス従事者を育成する。	①学習環境を整え、学習習慣を定着させる。	①生徒一人ひとりに目標を持たせ、資格取得や進路実現のための指導を行う。	4 学科全職員で指導に取り組めた。 3 半数以上の学科職員で指導に取り組めた。 2 一部の学科職員で指導に取り組めた。 1 指導に取り組めなかった。	3	資格取得の指導に取り組むことができた。他学科、教科の先生方に放課後や休日にも課外していただき、多くの資格を取得できた。また、面接指導なども行うことができた。	3 ◎南九州大学との交流が進学にも反映されていると思います。 ◎南九州大学と連携して是非農業クラブ全国大会に出場し最優秀賞をとりたい。
		②「農業」「福祉」「家庭」を連動させた農場活用を実現する。	②教科間の連携を図り、年次計画に基づき授業展開を行う。	4 学科目標に沿った農場活用ができた。 3 学科目標にほぼ沿った農場活用ができた。 2 農業のみであったが農場活用ができた。 1 全く取り組めなかった。	3	教科間の連携を図り、年次計画に基づいた授業展開を行えるようにしたい。農場で栽培した生産物を利用した料理が県のコンテストで最優秀賞などの表彰を受けることができた。	
		③生徒のコミュニケーション能力を高めると共に、生徒に自らの学習に対する自信を持たせる。	③年次計画に基づいた交流事業を行う。	4 活発な交流事業で、学習成果を発揮できた。 3 交流事業が実践できた。 2 交流事業が実践できないところがあった。 1 交流事業を実施しなかった。	3	幼稚園、小学校と交流を行うことができた。内容や回数については検討が必要である。休日などに南九州大学と連携しボランティア活動を実施した。	

分掌	基本方針	年度達成目標	標達成のための計画	評価基準	内部評価		学校関係者評価
					評価	評価の観点（成果、課題等）	
2 年 学 年 会	規範意識と進路意識の高揚	①集会時の態度「聞く」「待つ」の完成。	①学年全体で「中に入って」指導を行う。	4 「聞く」「待つ」の姿勢がしっかりできた。 3 「聞く」「待つ」の姿勢がほぼできた。 2 「聞く」「待つ」の姿勢がほとんどできなかった 1 指導したがほとんどできなかった。	2	担任による指導に頼り、組織的な指導には至らなかった。『聞く』についてはわずかに改善がみられたが、『待つ』ことができず、特定の間がが私語やよそ見をするような落ち着きのなさが見られた。	3
		②イエローカード指導対象者50%減	②生徒とのコミュニケーション、常時指導を行う。	4 イエローカード指導者50%減を達成できた。 3 イエローカード指導者30%減を達成できた。 2 イエローカード指導者10%減を達成できた。 1 イエローカードの効果は発揮できなかった。	1	集団による万引き行為が発生するなど、前年度と比較してほとんど変わらない結果に終わった。担任による常時指導は行われていたが、組織的な、集団への注意喚起の不足が一因と思われる。	
		③未知の可能性へ挑戦させる。明確な進路目標を設定させる。	③活躍の場を提供し、失敗（成功）体験をさせる。進路指導部と連携し、インターンシップや講演会を充実させる。	4 実施後、生徒の進路意識が高まった。 3 実施後、概ね生徒の進路意欲が高まった。 2 実施後、進路意欲に変化が見られなかった 1 実施後、生徒の進路意欲が低下した。	3	進路部による計画的な実施のお陰で、進路学習による意識の高揚が見られるようになった。また、学科の多大なる尽力によって、インターンシップ成功を収められた。	
3 年 学 年 会	保護者・職員との連携を図り、一人ひとりの進路希望実現に向けた指導を行う。	①生徒が希望する進路目標実現に向けて、早期に適切な指導支援を行う。	①学年PTA集会・進路集会を実施して情報を共有し早めの進路設定につなげる。	4 計画どおり実施できた。 3 概ね実施できた。 2 実施にむらがあった。 1 計画どおり実施できなかった。	3	進路においては、進学では全員が希望する学校に決定できた。また、就職では未定者が1名いるが、概ね決定できた。進路指導部との連携を図りながら、集会等を重ね、問題行動もほとんどなく1年間を終えたのは、大変良かった。進路決定後に気の緩みが見られたことは、今後の課題でもある。	4
		②最上級生として特別活動等に積極的に参加させ活躍させる。	②生徒会・農業クラブ・部活動へ中心的な取組をさせる。	4 学年相応の活躍する場面が見られた。 3 全体に意欲的な取り組みが見られた。 2 一部の生徒の取り組みに終わった。 1 全体が的に取り組まなかった。	4	部活動、農ク活動等での活躍も多く見られた学年であった。学校行事でもまとまり、最後の卒業式でも厳肅な式典となった。しかし、3学年としては、2学期の行事の精選が急務と捉え、生徒にとって進路へ向けての環境整備を強く要望する。	

◎一部の生徒の行為は残念だが、全体的に落ち着いて最上級生としての自覚が見られます。

◎3学期は生徒一人一人が落ち着いてきたように思います。

◎全員の進路決定は見事です。

◎キャリア教育の充実が進路決定100%につながったと思います。